



風のかたち

No. 180 安田小学校長 新田 哲之

2021年6月9日

人の温もり

一日学校を留守にすることがありました。次の日、わたしの机の上に夏野菜のキュウリが置かれ、手紙が添えられていました。「いえでそだてたキュウリをわたします。じぶんでしゅうかくしました。しおをかけてたべてください。」とありました。この手紙を書いた2年生は、家の庭で育てているキュウリが大きくなったので学校に持って行って食べてもらおうと思ったようです。ところが、校長室に行ってもわたしがいません。何度か出直してもいないので、手紙を添えたようです。子どもは収穫したキュウリをその日のうちに食べてほしかったのです。早朝のもぎたてのキュウリはおいしいとよくわかっていました。だから、いちばんおいしい食べ方を手紙にしてくれたのです。親御さんから聞いたのですが、自分たち家族で食べる喜びと同じように、人にも喜んでもらいたいと子どもは学校に向かったようです。子どもの思いに温かさを感じました。

5年生は社会科で農業生産の学習をしました。一人一つの作物を担当し、それぞれが調べてわかったことを新聞にしていました。わたしが掲示された新聞を見ていると、5年生がやってきて、この新聞を見てくださいと指さしました。自分の作った新聞ではなく、友だちの新聞です。その出来栄の良さを説明してくれました。そうしているうちに数人が集まってきて、この新聞のここがいい、あれもいいと言います。5年生くらいになると客観的な見方ができるもので、人の良さに気づいて自分ももっと良くしたいと考えることができるようになります。こうやって調べる力や表現する力を上げていく学習が、子どもの学び合いでできていました。この学び合いのもとになるのが、人の温もりです。

今、人と人が出会い、共に過ごすことがどんなに幸せなことを多くの人が身を持って感じています。リモート生活で様々な機器のお世話になっているのですが、そんなときだから強く思うのが人の温もりです。これからどんな状況になろうとも、人は人によって幸せになれるのです。逆に、人は人によって不幸にもなると考えるなら、学校は、いっそう、人のためになりたい、人のために何かを成し遂げたいと考える人を育てなければと思います。先日、花を育てている栽培委員会の5年生と6年生が、雨の中でも草取りをしていました。何かできることはないかと考えてのことです。ほんの小さな活動ですが、この小さな活動がもっとも人の温もりを培っていきます。

かつて、卒業生が学校を訪れたときに何の用かと尋ねるといふ失敗をしました。学校は、長い旅をしている者が雨に打たれたとき一休みする場所でもあります。子どもが心の温もりを培い、人の温もりのある学校でありたいと思います。